

むささび

第44号

令和3年9月30日発行

JForest 北信州森林組合
〒383-0061 中野市大字壁田938-1
TEL:0269-38-0371 FAX:0269-23-5350
URL <http://www.jforest-kitashinshu.or.jp/>
E-mail musasabi@jforest-kitashinshu.or.jp



安全大会での安全取組宣言

今年度の安全作業を誓う

＜畔上班＞



組合ホームページもあります。ぜひ、ご覧ください！
<http://www.jforest-kitashinshu.or.jp/>
スマートフォン対応となっています。

主な内容

- 「ふるさとの森づくり県民の集い」
栄村で開催…………… 2
- 令和3年度安全大会を開催…………… 3
- 設立20周年記念事業検討委員会発足… 4
- 県議会農政林務委員会へ陳情…………… 5
- 広報誌「むささび」広報コンクールで奨励賞
- 新系統運動方針について…………… 6
- ワイヤーロープのアイスプライス講習会開催
- 高社中3年生SDGs教育…………… 7
- ウッドチップの販売(木島平村)…………… 8

「ふるさとの森づくり県民の集い」 栄村で開催されました。

令和三年度ふるさとの森づくり県民の集い（第71回長野県植樹祭）が六月四日に、栄村の「さかえ倶楽部スキー場」を会場に開催されました。

昨年度に開催が予定されていましたが、新型コロナウイルス感染拡大により今年度に開催が延期となっていたものです。

今年度も通常開催に向けて準備を進めていましたが、新型コロナウイルス感染防止対策から、規模を縮小して主催者と共催者による植樹活動を中心とした開催となりました。

開催地である栄村は、平成二十三年三月に発生した長野県北部地震の復興から十年が経過しました。今回の植樹は、健全な森林づくりにより安全・安心な県土づくりの推進をPRする貴重な機会となりました。



大会テーマと作業中の看板



植栽の様子

当日は、長野県林務部、北信森林管理署、北信地域振興局、管内市町村、管内森林組合のスタッフによる植樹となりました。当組合からも十名が参加し、総勢八十名ほどで、コナラ五百本、クヌギ五百本、レンゲツツジ五百六十本、ヤマツツジ五百本、カタクリ二百本を、スキー場に隣接した林内等に植樹しました。

多くの企業・団体から協賛いただき、苗木の提供や苗木購入資金をいただいておりますので、大切な苗木がしっかりと根付くように植栽を行いました。

植栽は午前中で終わり、スキー場のレストランを昼食会場にして、感染防止対策をしっかりと行った中で、持参した昼食をとって終了となりました。

なお、記念植樹・記念標柱建立とキジの放鳥は、関係者だけで六月二十二日に行われています。

本来であれば、県下から千人ほどが参加するたいへん賑やかなイベントですが、コロナ禍でこのような形の開催となってしまいましたので、来年こそは通常開催されることを期待するところです。

令和3年度安全大会を開催しました。

……… コロナ禍の中で役職員により開催 ………

重大災害撲滅を目指し、労働安全を誓う

…… 油断と過信をなくし、基本に戻って安全作業を ……

六月二十九日に安全大会を「中野市中央公民館」で役職員が参加して開催しました。

新型コロナウイルス感染防止のため、協力事業体の参加と来賓の招待を取り止めて、時間も短縮しての開催となりました。

昨年は、感染拡大により全国労働安全週間に向けての開催は延期となり、その後も開催を計画しましたが中止となり二年ぶりに行うこととなりました。感染防止による利用人数制限により参加者を役員だけとし、机椅子等の消毒、マイクの消毒など可能な対策をした中での大会となりました。

また、昨年の総代会で役員改選が行われましたが、新役員と職員との対面もできないままとなっていましたので、開会挨拶に続いて役員紹介を行いました。

役員紹介に続いて、昨年度の労働安全の取組みが優秀であった作業班の表彰が行われ、松本班が表彰されました。



安全大会での役員紹介の様子



労働安全コンサルタントの新保修司氏による講演



利用事業室の安全取組宣言の様子



組合長から表彰を受ける松本班

なお、優秀会社の丸重陸送（株）（山ノ内町）には、後日表彰状と副賞が贈られています。

表彰の後には、各作業班の安全取組宣言がされました。今年からは業務課の事業係、計画係、利用事業室でも各々の宣言が行われました。そして安全取組宣言に続いて、全職員を代表して南都業務課長代理から「安全の誓い」が行われました。

最後の安全講話では、一昨年、昨年と危険判断が甘かったことから、重大災害を発生させてしまいました。そのため、「油断と過信ヒューマンエラーの位置付け」と題して、新保労働安全コンサルタント事務所代表で労働安全コンサルタントの新保修司氏に講演いただきました。

ヒューマンエラーの背景、人間が持つ基本的な特性などから、ヒューマンエラーの要因と防止対策について説明いただき、不安全行動とつかりミスの違い、そしてつかりミスとの付き合い方について教えてくださいました。

労働災害や物損事故を発生させないように、今回の講話が役立てればと思います。

設立20周年記念事業検討委員会が発足

来春の記念式典開催に向け委員会がスタート

六月三日に設立二〇周年記念事業検討委員会の第一回委員会が開催されました。役員の委員については、三月二十五日の理事会で選出され、各役職について決定していましたが、職員委員については五月十三日に記念事業の正副委員長と分科会委員長により選出され、今回初会合となりました。

竹内副組合長が検討委員会の委員長となり、検討委員会で全体の取りまとめを行い、分科会として式典等委員会と記念誌委員会が専門的に計画立案をすることとしています。

七月二十日の理事会での報告では、式典等委員会からは、「①講演orアトラクション、②式典、感謝の集い（祝賀会）、③招待者、④記念品」について平田式典等委員長から協議内容の報告がありました。なお、式典については、令和四年四月二十三日（土）に飯山市文化交流館「なちゅら」で開催することが決定されています。

記念誌委員会では「①記念誌の外郭について、②スケジュール、③仕様、契約」について関記念誌委員長から協議内容の報告がありました。

設立20周年記念事業検討委員会

役 職	氏 名	備 考
委員長	竹内 義明	副組合長
副委員長	清水 侃	組合長
委 員	田中 忠	参事
委 員	堀澤 正彦	総務課長
委 員	南都 寛	業務課長代理

分科会① 式典等委員会

役 職	氏 名	備 考
委員長	平田 幸男	総務委員長
委 員	吉池 茂敏	総務副委員長
委 員	丸山 隆久	業務副委員長
委 員	瀧澤 俊實	総務委員
委 員	尾淵 義輝	業務課計画係長
委 員	中山 尚士	業務課計画係主査
委 員	関 真一	業務課事業係主任
委 員	河野 透	業務課計画係技師
委 員	丸山 幸裕	業務課計画係技師

分科会② 記念誌委員会

役 職	氏 名	備 考
委員長	関 保典	総務委員
委 員	藤澤 敏孝	業務委員長
委 員	丸山 松良	総務委員
委 員	中沢千恵子	業務課事業係主事
委 員	小林 和江	総務課会計係主事



毎月2回開催されている記念誌委員会の様子

記念誌については、基本構想として序章、一章二十年間のあゆみ、二章主要事業の概要、三章思い出篇、四章記念式典計画概要、五章資料編からなり、その他に関係者の皆様にご依頼してあります祝辞等を掲載し、八十頁以上となる予定です。また、見やすいように、写真を主体としたオールカラー刷りとします。

印刷製本については、広報誌を発注しています社会福祉法人ながのコーナ―長野福祉工場と契約をしました。最終校正を来年二月末までに終了することとし、三月には発行予定としています。

六月から記念誌委員会をスタートして、毎月二回の委員会を開催して原稿作成を行っています。

合併からしばらくは、フィルムカメラでしたので、写真等の保存先が明確でないことから、なかなか簡単にはいかないようですが、完成を楽しみにしてください。

県議会農政林務委員会へ陳情

七月二十七日に長野県議会農政林務委員会の現地調査実施に伴う陳情が、長野県北信合同庁舎講堂で行われました。

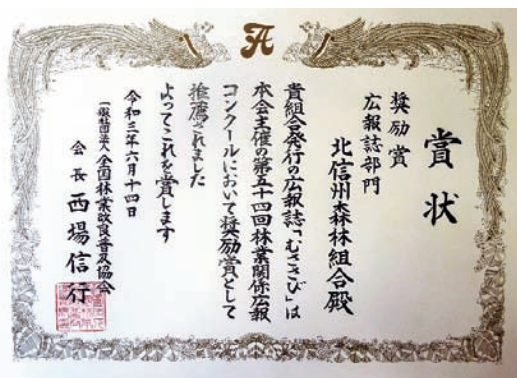
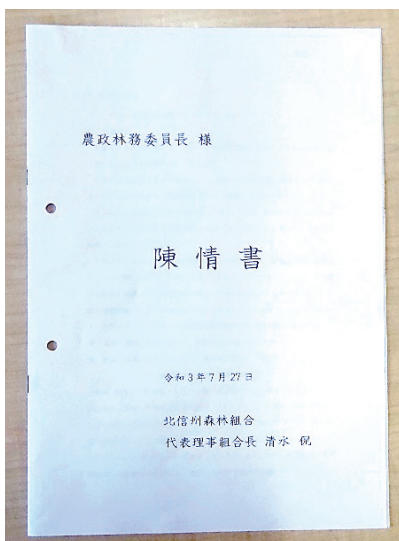
当日は当組合と、栄村と下水内中部土地改良区の三者による陳情が行われました。当組合からは、組合長が長野県森林組合連合会の定期監査に監事として出席したため、竹内副組合長が代わって陳情を行いました。陳情では、一、林業成長産業化に向けてのインフラ整備として、①路網整備、②境界明確化の推進、二、造林補助申請の検査におけるスマート林業技術の積極的採用についてお願いをしました。

路網整備については、全県の問題であると認識しているとのこと。県議会としても長野県が他県に先駆けて推進できるよう県に要望していくとのことでした。境界明確化の推進として、森林整備支援交付金における長野県の基金が来年度で底をつき、国庫補助だけになると事業実施が遅れるとともに、実施期間が短縮することから、事業実施が困難となることについては、詳細を確認したうえで、新たな施策が必要であれば県議会として検討するということでした。造林補助申請の検査におけるスマート林



県議会農政林務委員会に陳情する竹内副組合長

業技術の積極的採用については、県議会も同様と考えており林務部に対して簡素化を求めていくということでした。
当組合にとつて必須なことでするので、実現していただきたいと願っております。



広報誌「むささび」が奨励賞に

組合広報誌「むささび」が、一般社団法人全国林業改良普及協会が主催する、第五十四回（令和二年度）林業関係広報コンクール広報誌部門で奨励賞を受賞しました。

本来であれば、全国林業改良普及協会総会において表彰が行われるのですが、今回はコロナ禍により表彰状と副賞が贈られるだけとなりました。

審査員の評価では「SDGsの記事などタイムリーな話題を取り上げている点、組合としての活動、地域への貢献等の記事もあり、組合報として機能を果たしていること、表紙はメリハリが効いていて、目次もはつきりしており、内容が表紙ではつきりわかること、ホームページと連携して、さらなる情報の提供ができていること」が優れているとされました。

平成十四年三月に創刊号を発行してから、継続して定期発行をしております。今回の受賞を励みに、これからも組合員の皆様への情報提供に努めてまいります。



今回の審査対象となったむささび40～42号

新系統運動方針「JForestビジョン2030（仮称）」について

「コロナ禍で一年遅れの策定となります。」

「JForest森林・林業・山村未来創造運動」が令和二年度末で終期を迎えることを受け、全国森林組合連合会において次期系統運動の検討が進められていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、次期系統運動方針の決議が令和三年秋に延期され、「第二十九回全国森林組合大会」で行うとされました。令和三年四月より新たな森林組合系統運動の始期となることを受け、令和二年度全国森連会長会議において「新たな森林組合系統運動の基本方向」JForestビジョン2030（仮称）の策定に向けて」とした、基本方向が決議されました。

新系統運動方針「JForestビジョン2030（仮称）」は、秋に開催される全国森林組合大会において決議される予定ですが、それに先立ち、基本方向を踏まえて、地域の実情に応じた取組内容及び数値目標を検討するとされています。

今後、林業施策・経済情勢・社会情勢などの外部環境を認識し、これまでの系統運動の実績と課題を検証するなどし、新運動方針の取組内容及び目標設定をすることになります。

大目標としては、基本方向の中で「①組合員サービスの向上、②働く人の所得向上・就業環境改善、③事業拡大・効率化による経営の安定」が掲げられています。これら目標達成のための取組項目として「①都道府県・市町村と連携した地域森林管理体制の確立、②循環型林業の確立と系統の木材販売力の強化、③高度人材の確保・育成、④協同組合として組合員に信頼される組織体制の確立、⑤国民生活及びSDGsへの貢献」が示されています。

こうしたことを踏まえた中で、地域や当組合の実情に合わせて新系統運動方針の検討を進めてまいります。次の総代会で提案させていただきます予定としています。

新森林組合系統運動に関するスケジュール



ワイヤロープのアイスプライス講習会を開催



技能職員を対象にワイヤロープのアイスプライス講習会を行いました。

現場では、伐採木にワイヤーを掛けて引き出す作業が主であるため、アイスプライスも土引き用に作ったものが使われています。土引きをしている時点では、法令上全く問題ありませんが、それを玉掛けワイヤーとして使った場合には法令違反となります。また安全上の重大な問題となります。台付けワイヤーと玉掛けワイヤーの違い、玉掛けワイヤーのアイスプライスの作り方の実技を行いました。

アイスプライス製作では、個々の習熟度には大きな違いがございましたが、台付けワイヤーと玉掛けワイヤーの違いについてはよく理解できたようです。

高社中学校3年生のSDGs教育



マサカリで受口を掘りました。



大ノコギリで追口を切込みました。

四月十六日の中野市立高社中学校でのSDGsと森林組合の取組みについての講演後、生徒有志から「自分達で木を伐採して、その木から何かを作って社会貢献をしたい」ということから、指導をお願いされました。地元の高社山四区共有林の協力を得て、アカマツの立木を1本伐採させていただきました。また、四区共有林と森林の里親契約を結んでいるテレビ信州さんにも協力いただきました。

五月十七日に、生徒達を山に連れていき伐採を行いました。SDGsということで、二酸化炭素を排出しないよう、機械動力に頼らず人力でということになり、マサカリと大ノコギリで伐採を行いました。この様子はテレビ信州の夕方のニュースで放送されました。

胸高直径40cmを超える大きなアカマツでしたが、マサカリは紙が切れるほど刃研ぎをし、ノコギリも目立てをしたので、生徒達の力でも上手く伐採することができました。伐採の瞬間は全員から歓声があがりました。

伐採した木は長さ4mに造材して、丸太2本を地元の中澤木材さんに運搬しました。



製材工程を見学しました。



角材から部材を切出しベンチを製作しました。

六月十七日には、製材工程を生徒達に見学してもらいました。学校から徒歩で三十分ほどかかりましたが、歩いて製材所に行き、中澤社長に説明いただき、丸太から木材に加工される過程を学習しました。生徒たちは、丸太から四角い柱ができる様子に感心していました。

七月二十七日、二十八日には、製材した板から小物作りを行いました。カレンダー、まな板、スマホ立てなどを製作しました。これらは、学校祭で販売して、売上金を使って植林等を行いましたということでした。

八月四日、五日には、製材した角材からベンチ作りを行いました。ノコギリで部材を切り出して、ビス止めをして組み立て、サンドペーパーで磨いて、塗装で仕上げました。

四日にはテレビ信州の取材があり、一連の様子が九月四日放送の「伝えよう里山ものがたり」で放送されました。

このベンチは、学校祭で展示をした後で、中野市に寄贈されるそうで、市では、リノベーションをする市民会館に設置したいということでした。

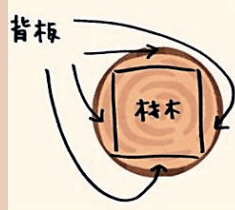
木島平村からのお知らせです。



長野県北信地域の山の
スギを使用しています！
庭に撒くと雑草対策、
防虫対策に！
最後は土にかえるので
環境にやさしいです！



製材過程ででた背板を
チョッパーにかけて
チップにします！
チップの他にも背板は
トイレトペーパーや
割りばしになっています！



背板とは？

材木の製材過程で柱や角材などをとった残りで片面に丸みのある板のことです！



出荷元



瑞穂木材株式会社

〒389-2301
長野県下高井郡
木島平村大字穂高 3228-1
TEL 0269-82-3118

販売場所



〒389-2303
長野県下高井郡
木島平村大字上木島 38-1
TEL 0269-62-2201

道の駅FARMUS木島平



@mizuhomokuzai



@kijimadairamitinoeki

売上金の一部は森林整備に使われます。

本 所

〒383-0061 中野市大字壁田938番地1
TEL 0269-38-0371 (代)
FAX 0269-23-5350

利用事業室

〒389-2255 飯山市大字静間383番地14
TEL 0269-62-8111
FAX 0269-67-0120

編集後記

コロナ禍で大きなイベントが中止や縮小となり、皆さんが森林・林業に接する機会が無くなっているように思えます。そんな中、ウッドショックで木材が高騰しているようですので、地元の木材に関心を持っていただいて、その元となる森林・林業につながってくれればと思います。